

第44回 モンゴルの世紀②

1 元の成立

- ・1259年にモンケが死ぬと、弟のフビライが第5代の大ハーンとなった。
→弟のアリクブケや一族の（ ）が反乱を起こした。



フビライ

クビライとも。遊牧世界と農耕世界の両方を支配する、新しい帝国を築き上げた。

☆元（大元ウルス）（1271～1368年）

- ◆（ ）（世祖）（在位 1260～1294年）
- ・1264年、フビライは、都をカラコルムから（ ）に移した。
→1271年、さらに国号を中国風の（ ）へと改めた。

- ・1274年、高麗とともに（ ）遠征を行ったが失敗した（文永の役）。
- ・1276年、臨安を占領し、（ ）を事実上滅ぼした。
→1279年、厓山の戦いで南宋を完全に滅ぼした。
- ・1281年、2度目の日本遠征を行ったが、再び失敗した（弘安の役）。

<フビライの東南アジア遠征>

- ・1287年、ビルマの（ ）に侵入し滅亡させた。
→しかしベトナムの（ ）には撃退された。
- ・また（ ）のシンガサリ朝への遠征も、現地勢力に撃退された。
→ジャワ島では、元の撤退後に（ ）が成立した。



「蒙古襲来絵詞」



防塁

元寇は、日本史にも多大な影響を与えている。鎌倉幕府の執権であった北条時宗は、大苦戦の末に「神風」のおかげもあって撃退に成功した。



陳興道

ベトナムのホーチミン市に建つ陳興道の像。入試にはあまり出ないが、ベトナムの英雄である。チェン=ファン=ダオと読みましょう。



2 元の中国支配

- 中国を支配した元は、() するなどしたため、従来の支配層である士大夫が中央で活躍する機会は少なかった。

- () …支配民族であり、主要な官職を独占した。
- () …西アジアや中央アジアの民族で、財政や文化面で主に活躍した。
- () …金に支配された中国人（漢族）・高麗人・契丹族などからなる。
- () …南宋に支配された中国人（漢族）からなる。



マルコ=ポーロ

ヴェネツィア共和国出身の商人でフビライに仕えた。父に従って陸路中央アジアを経由し、大都にやってきた。著書『世界の記述』は、大航海時代に大きな影響を与えた。



耶律楚材

オゴタイに仕えた官僚。名字からわかるとおり、元々は遼の王族である。モンゴル帝国の国家体制を整えるのに貢献したとされる。



史天沢

元々は金に仕えていた漢民族なので、漢人にあたる。フビライに仕えて、中国の統治法を進言した。南宋攻略の途上に病死した。

<元代の交通と経済>

- 広大な領土の隅々に、() を整備した。
→牌符という証明書があれば、使者や旅行者は領内を自由に通行できた。
- フビライは、隋以来の() し、新しい運河の建設も行った。
→また山東半島をまわる() も発達した。

- ()、明州（寧波）、()、() は、世界有数の港として栄えた。
- 銀とともに、() と呼ばれる紙幣が広く流通した。



牌符(牌子)

写真は銀牌。金牌や銅牌などいくつかの種類がある。書かれている文字はパスパ文字。駅伝制があったからこそ、マルコ=ポーロは陸路で大都まで来ることができた。



交鈔

金の時代から発行されていた紙幣。小額紙幣から高額紙幣までそろっていた。元の経済システムは、これからもっと注目されています。

3 元の崩壊と明の成立

- 14世紀半ば以降、ユーラシア全体の()に加えて、内紛や君主がチベット仏教にはまったことにより、極度の財政難におちいった。
→交鈔の乱発による経済混乱や専売制の強化により不満が高まった。



朱元璋

貧農出身の乞食坊主から身を起し、皇帝にまで登りつめた。人間とは思えないような顔をしていたらしい。

- 1351年、弥勒仏の下生信仰を説く白蓮教徒が、江南で大反乱を起こした。
※この農民反乱を()という。
→紅巾軍の兵士()が、1368年、()を建国した。
→元は中国を捨ててモンゴル高原に撤退し、()として存続した。